

伯刺西爾時報號外

Director-Proprietario Seisaku Kuroishi

BI-SEMANARIO

No. 864 - S. Paulo 25 de Fevereiro de 1933

Redação e Administração

Rua Fagundes, 16 - Tel. 7-4670

十九ヶ國委員會報告書

四十一對一で可決

帝國全權席をけりつて退場

壽府引揚は二日後か

〔壽府廿四日發電〕

國際聯盟臨時總會は、昨廿四日午前十時三十分
イーマンス議長司會のもとに開會、直に十九ヶ
國委員會報告書の票決に移り四十一對一票にて
遂に可決した

松岡代表は、右報告書の票決採擇後顔支那代表
の演説終るをまつて登壇し「帝國政府としては
該報告書を絶對に承認し得ず」と宣言し、最早や
是れ以上聯盟と協力するの不可能なるを斷じ、
即時隨員一同を促し議席をけりつて退場した

南米十三ヶ國は揃ひも揃つて該報告書票決に參
加しなかつた

〔壽府廿四日別電〕

議場退出の帝國全權一行表玄關に差掛るや隙さず米UP記者
が「閣下等の退場は、日本の聯盟脱退を意味せるものによ」と質
問せるに對し、松岡全權は沈痛なる面持にて唯數語「余等は再
び壽府に歸へらざるべし」と答へたのみであつた

〔壽府廿四日別電〕

豫てより歸國の爲め辭意を洩しゐたる國際聯盟事務次長杉村
陽太郎氏は、帝國全權退場の二十四日ドラモンド總長にまで辭
表を提出した

尙、帝國全權一行の壽府引揚は二日後決行の模様